

地域医療のさらなる発展をめざして、 調剤薬局事業を展開しています

当社グループの調剤薬局は全国各地で地域に根ざした業務を行っています。
また、「薬局共創未来」という薬局のネットワークを構築しています。
わたしたちの調剤薬局事業の特色をご紹介します。

ファーマクラスター（株）が調剤薬局事業を管理しています

超高齢社会を迎えるなかで、調剤薬局と薬剤師はこれまで以上に地域医療に貢献することが求められています。地域医療が機能するためには、地域に根ざした調剤薬局が健全に経営を続けることが欠かせません。わたしたちは各地の調剤薬局の経営をサポートするために、2008年12月にファーマクラスター（株）を設立しました。ファーマクラスター（株）は、調剤薬局管理会社として、各店舗がよりよいサービスを患者さまに提供できるように、経営の効率化や薬剤師の技能向上を手助けしています。当社グループの調剤薬局は2019年10月末時点で約700店です。

「薬局共創未来」という薬局のネットワークをつくっています

ファーマクラスター（株）は、各地の薬局経営者のための会員組織である「薬局共創未来」の事務局も務めています。「薬局共創未来」は2008年に保険薬局経営者研究会（現：薬局共創未来研究会）としてスタートし、その後、しだいに会員を増やして、2019年10月末時点で7,000法人をこえるネットワークに成長しました。

経営者の多くは、独立性と自主性を保った経営を続けたいものの、経営効率の向上や人材の確保、社員の教育、情報

の入手などで日々頭を悩ませています。そこで「薬局共創未来」では、会員のネットワークを活用して、各会員の取り組み事例を紹介したり、会員限定の講演会・セミナーを開催したり、PB（プライベートブランド）品を開発して販売支援をしたりして、各薬局の経営をサポートしています。

患者さまとのコミュニケーションを大切にしています

当社グループの調剤薬局には2つの強みがあります。ひとつは、グループ内で独自に開発した「ENIF（エニフ）」「ENIFvoice SP+A（エニフボイス エスピープラスエー）」「ENIFvoice Core（コア）」「ミザル」などの「顧客支援システム」を効果的に活用できること。こうしたシステムの導入によって経営と業務の効率化をはかることができます。もうひとつはグループ内の共創未来ファーマ（株）が製造・販売する高品質のジェネリック医薬品を安定的に入荷できること。患者さまに安心していただけるのはもちろんのこと、増え続けるジェネリック医薬品のなかから信頼できるものを探し出す労力を省くことができ、業務の効率化につながります。

効率化によって生み出された時間は患者さまと接する時間にあてることができます。薬剤師は薬学の専門家として、患者さまに正しい服薬方法をお伝えするとともに、副作用や飲み合わせのリスクがないかを確認・説明しています。わたしたちは調剤室にこもりきりになるのではなく、こうした顔と顔を合わせたコミュニケーションを大切にしています。患者さまひとりひとりに合わせた対応をすることによって、みなさまの健康をサポートすること。そのことが薬剤師の誇りや喜びにつながり、さらに患者さまへのサービス向上へとつながるものと考えています。

在宅医療の一員として患者さまのご自宅を訪問しています

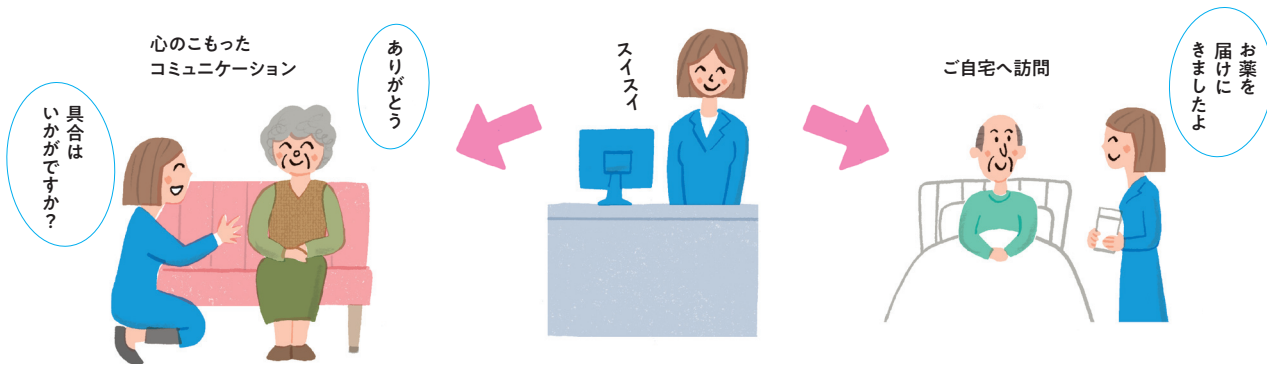
超高齢社会の日本では、従来の入院型の治療から、地域で高齢者を見守り、ケアしていく時代を迎えています。調剤薬局も地域包括ケアの一員として、在宅医療にも対応する「かかりつけ薬剤師・薬局」になることを求められています。当社グループの調剤薬局も、患者さまが住みなれたご自宅で安



(株)ファーマみらいの「府中薬局 アゼリア館」。(株)ファーマみらいは当社グループ最大のチェーンで、2019年11月末時点で371の店舗を持つ

当社グループの調剤薬局の強み

「顧客支援システム」による業務の効率化



心して療養していただけるように薬剤師がご自宅を訪問しています。

在宅医療では、ひとりの患者さまに対して、医師、訪問看護師、ケアマネージャー、介護士など、さまざまな職種がチームを組んで、ケアにあたります。そのチームの中で、薬剤師はお薬を届けたり、お薬についてご相談を受けたりするのはもちろんのこと、患者さまの服薬状況、お薬の効果、副作用の有無などを確認しています。

わたしたちは、在宅医療の重要性を意識し、多職種連携に積極的に参加して、自らの専門性を生かして患者さまひとりひとりのQOL(生活の質)向上につながる医療サービスを提供できるように努めています。

「高度薬学管理機能」によって地域医療に貢献していきます

近年、がんや難病の方も外来で治療することが多くなり、住み慣れた地域で療養するようになりました。こうした患者さまが安心して療養できるように、「かかりつけ薬剤師・薬局」は、「高度薬学管理機能」を持つことが期待されています。たとえば、日本臨床腫瘍薬学会が認定する「外来がん治療認定薬剤師」が薬局に勤務して、自宅で療養するがん患者の方に専門的な服薬指導を行うなどです。

当社グループでは、所属する薬剤師が専門的な知識を身につけられるように、彼らを大病院で約半年間研修させる取り組みを始めました。臨床での業務を通して知識を深め、技術を高めています。また、医師や病院薬剤師などの病院スタッフが退院する患者さまにどのような療養方針を伝えているかを知ることによって、調剤薬局での質の高い服薬指導につなげていきます。これからも専門性の高い薬剤師を育成して、地域医療をサポートしていきます。

気軽に立ち寄れる薬局をめざして地域との交流を深めています

わたしたちは、地域の住民・患者さまの健康意識を高め、健康寿命を延ばしていくために、地域社会との取り組みを積極的に進めています。

当社グループの(株)ファーマみらいは、店舗での「健康

フェア」を定期的に行うとともに、地域で開催される健康イベントやお祭りに積極的に参加しています。測定機器を用いた健康チェック、簡易血液検査、管理栄養士による食事の相談会など、さまざまなプログラムをおりまぜながら、地域との交流を深めています。目標は処方せんがないときでも気軽に立ち寄れる薬局になることです。

さまざまな仕事で薬剤師としての知識と技術を生かしています

当社グループの薬剤師は、調剤薬局で仕事をするだけではありません。たとえば、医薬品卸売の営業所に勤務する管理薬剤師は、薬事法関連法規を遵守できているか、医薬品を安全に管理できているかなどを日々チェックするとともに、MSへ医薬品についての情報を提供しています。そのほか、「顧客支援システム」の開発に従事したり、コールセンターで専門的な質問に答えたりすることも、当社グループの薬剤師の大切な仕事です。薬剤師としての知識と技術を生かして、安全・安心の医薬品流通に貢献できるように、さまざまなフィールドで努力を続けています。

「ヒヤリハット報告」を集めて安全についての研究を行っています

わたしたちは薬局での事故を限りなくゼロに近づけるために、「ヒヤリハット報告と活用」に取り組んでいます。労働災害における経験則のひとつ「ハインリッヒの法則」では、重大な事故1件の背後に軽微な事故が29件、さらにその背後に事故寸前の事態(ヒヤッとしたこと、ハッとしたこと)が300件あるとされています。

(株)ファーマみらいでは、医療安全支援室を設置して各薬局から「ヒヤリハット」を集めて、東京大学と共同で研究しています。さまざまな経験を持つ薬剤師たちが「ヒヤリハット」を解析・討論することによって対策が講じられ、その結果を各薬局へ配信しています。薬剤師たちは実際の業務の中のさまざまなリスクに「気づく」ことができるようになり、事故の防止につながっています。東京大学との共同研究の成果は、有志の薬剤師が教授の指導の下で論文を執筆し、学会で発表しています。